



外国出張報告書

平成 26 年 12 月 19 日

1. 出張国名 ガーナ
2. 出張月 平成 26 年 11 月～12 月
3. 出張目的 アフリカ稲作普及促進整備調査の検討委員会委員として、
水管理技術に関する助言：B

4. 成果の概要

タマレ市では、灌漑開発公社が貯水池（ダム）及び幹線水路を維持管理し、その支線水路の管理は農民組織に任せ、受益地に入植した農家から徴収した灌漑サービス料を水路の維持管理に充てている大規模灌漑地区の水管理状況を、同市 Sanga 村では、ため池の維持管理と水管理状況を各々調査した。

JIRCAS が Nwogu 村で建設中のため池には、掘り込みの切り土法面に 5 分勾配が採用されており、ため池水面からの蒸発量を低減させる有効な方策と思われる。

また、クマシ市では、ため池建設候補地とされている Aninkroma サイト及び Kodawen サイトを視察した。タマレ市一帯はサバンナ気候に属し、乾期の稲作導入は困難な状況にあるものの、既存ため池には水利用ルールが存在し、ため池を開発した場合でも水管理の組織化は可能と推察された。

一方、クマシ市一帯は湿気の多い半赤道気候に属し降水量が多く二期作は可能だが、集水域からの流出量が大きく、ため池の安全性を確保するためには、建設位置の選定と堤体構造の検討は慎重に行われる必要がある。クマシ市では不在地主の農地所有が散見され、ため池事業実施の難しさも感じられた。